

教育活動全般において

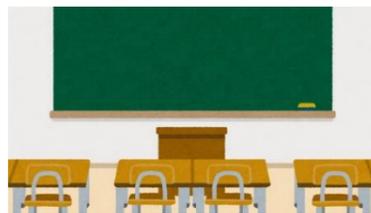
○ 温かい環境を！

- ・褒めて伸ばす！ただし、何が良いのか分かるように、具体的に伝えながら褒める。
- ・待つ時間を！5秒待ってから次のプロンプトを。



○ シンプルイズベスト！

- ・1週間・1ヶ月の予定は教室側面に掲示する。作品は教室背面、または廊下に掲示する。
- ・棚の中は見えないようにする。不必要なものは片付ける。布で覆う。
- ・指示は一度に一つ。言葉だけでなく、視覚的にも提示する。
- ・教室前面（黒板、黒板周り）には掲示物を貼らない。
- ・黒板には、日付、曜日、天気、日直、一日の予定のみ。



○ 見える形で分かりやすく！

- ・学習活動は視覚的に提示する。耳が聞こえない児童・生徒がいるつもりで。
- ・一日の流れを黒板に掲示する。文字やイラストを組み合わせ、学級の全員が分かるように提示する。
- ・学習に取り組む場所、好きな遊びをする場所、休憩する場所などを固定化。
- ・どこに何があるか、固定化し、児童・生徒が分かるように提示する。



○ チーム村上の力を発揮！

- ・担任のクラス、担当の児童・生徒だけでなく、全教職員が、全児童・生徒を支援する。
- ・全校児童・生徒の名前が分かる。同じ学部などの生徒の支援もできる。
- ・イメージは、マンツーマンディフェンスでなく、ゾーンディフェンス！



○ 教室を心地良い空間に！

- ・クールダウンできる場所を教室内、または教室の近くに設定する。
- ・教室は常に綺麗に。



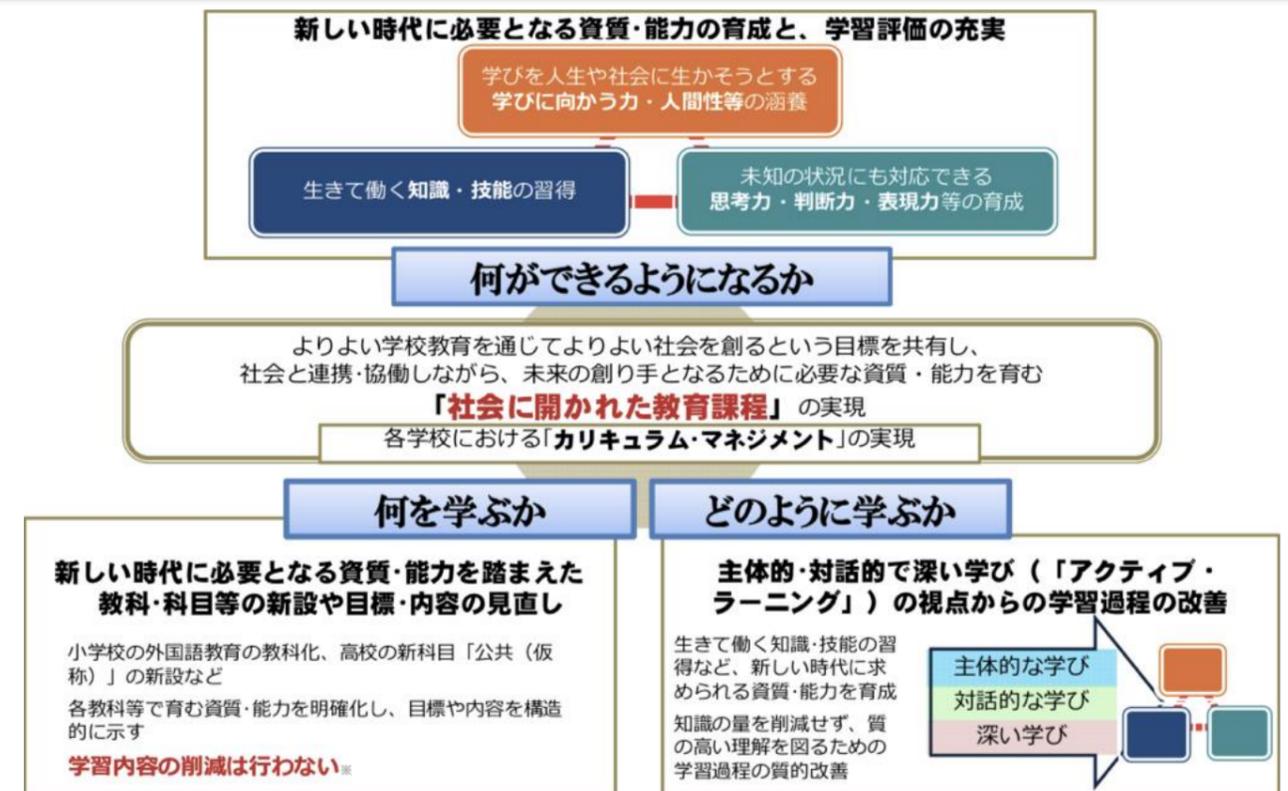
村上スタンダード 2019Ver.



村上スタンダードとは…

村上特別支援学校の全教職員が、児童・生徒に対して、学校教育目標「かがやこう」を実現するため、そして学習指導要領の改訂を踏まえた指導・支援を実施するための基本をまとめたものである。

学習指導要領改訂の方向性 文部科学省 HP より



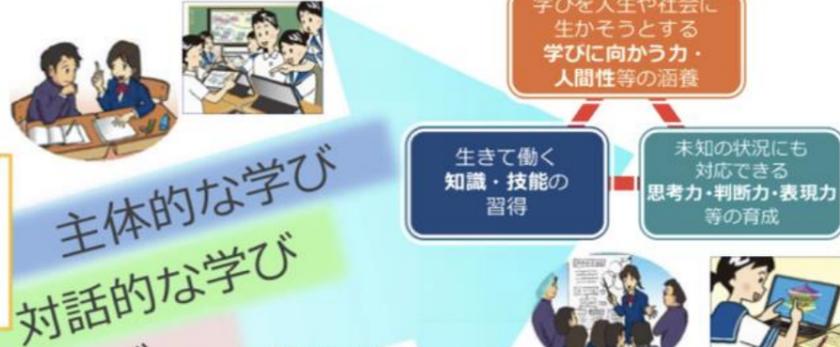
主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり

主体的・対話的で深い学びの実現について 文部科学省 HP より

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

- 【例】
- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
 - ・ 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

- 【例】
- ・ 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる
 - ・ あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
 - ・ 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る

【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

- 【例】
- ・ 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
 - ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通じて集団としての考えを形成したりしていく
 - ・ 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく

単元・題材の設定について

- ・ 年間指導計画や前年度までの取組を参考に、児童・生徒一人一人の興味・関心を最大限に生かした単元・題材を設定する。
児童・生徒の実態は毎年変わる！例年通りはNG！
- ・ 単元・題材の中で、地域資源を最大限に活用する。
人、場所、行事、もの等、活用できるものはないか
- ・ 単元・題材の中で、対話の場面を積極的に取り入れる。
学習グループ内や他学部、他校の児童・生徒、地域等、設定できる場面はないか
- ・ 当初の計画に縛られず、児童生徒の思いを見取り単元・題材を発展させる。
ここに学びの深まりがある！

目標設定・評価について

- ・ 全ての指導の形態において、単元・題材の目標、本時の目標は次の三観点で設定する。

- ・ 生きて働く**知識・技能**の習得
 - ・ 未知の状況にも対応できる**思考力・判断力・表現力**等の育成
 - ・ 学びを人生や社会に生かそうとする**学びに向かう力・人間性**等の涵養
- ・ 評価の観点は、評価規準と判断基準を明確にして設定する。
何が、どれくらいできたか
- ・ 評価は、「目標が達成できたか、できなかったか」「その根拠」を記述する。
事実の羅列はNG！

一単位時間の授業について

導入

- ・ 魅力的なモデルを提示する。
 Ex. 映像を提示する。得意な教師がやってみせる。プロを連れてくる。
- ・ 本時のゴールを児童・生徒が分かるように提示する。
 Ex. 本時の到達目標を数値で示し、板書する。具体的な姿をイラストや写真で提示する。
- ・ 単元・題材の終了時のゴールを児童・生徒が分かるように提示する。
 Ex. 単元・題材カレンダーを作成し、具体的な日時を示す。
 単元題材の到達目標を数値で示し、板書する。具体的な姿をイラストや写真で提示する。

やりたい！
やるぞ！



展開

- ・ ゴール達成のための手立てを示す。
 Ex. 一人一人の実態に応じた手順カードを用意する。
- ・ 様々な人と一緒に活動に取り組む場面を取り入れる。
 Ex. ペア学習の場面を設定する。
- ・ 「自分と考えと他の考え」「自分の動きと他の動き」など、自分とそれ以外の取組を比較する場面を設定する。できるように可視化する。
 Ex. 棒人間と吹き出しを使って誰が何を話したかを分かるように板書する。
 動きを動画や静止画で撮影し、タブレットなどを活用して比較できるように提示する。
- ・ 自分と他者との違いが分かるように提示する。
 Ex. 違いを強調（色分けをしたり、違う部分に印をつけたり）して提示する。

できた！
わかった！
そうだったのか！



終末

- ・ 本時の取組を振り返る場面を設定する。
 Ex. 画像や動画を提示しながら、良い取組を紹介する。
 頑張ったことについて具体物を用いて発表する場面を設定する。
- ・ 本時の学びが次時にどうつながるかを確認する場面を設定する。
 Ex. 次時の内容と目指す姿を具体的に提示する。

楽しかった！
もっとやりたい！
もっとこうしたい！

